

毒キノコの見分けかた

キノコのなかで、最もおそろしいのはテングダケで、これは茎にツバとツボがあって、そのツボは、茎の根もとの土の中にかくれて、いるから、根もとをよく見ることが大切である。次に1本シメジ類では、カサをうら返して見て、ヒダが桃だったら、それは毒があるから、食べると危険である。また、ブナの枯木にでるツキヨタケは、シイタケやムキタケによく似ていて間違いやすいが、これも毒

キノコである。見わけかたは、暗いところを見ると、ヒダが青く光るから、怪しいと思ったら暗いところで、確かめてみる必要がある。それから、竹やぶに生えているドクササコを食べると、手足の指先がはげしく痛み、神経痛のようになる。このドクササコのカサは、うす茶色で真中がくぼんでおり、茎は縦にさけます。

植調協会だより

◎ 昭和46年度ミカン関係除草剤・生育調節剤現地研究会

日時 昭和46年9月13日～14日

場所 宮崎県総合農業試験場
鹿児島県果樹試験場

お知らせ：当誌第5巻第3号で、ナシのエスレル試験成績検討会を9月9日～10日とお知らせしましたが、9月8日～9日となりました。

編集後記

近頃、地方都市でさえ、日ぐらしの聲がきかなくなかった。あちこちに、樹木が生い繁っていながら、セミなどの姿は全くみられない。農村に入って、セミにめぐりあうのも、なかなかむずかしい。

それに反し、ブタクサなどの公害雑草は、どしどし都会に進出してきた。駅前の街路樹の植えてある、わずかな地面に、ここぞせましとばかりブタクサが繁茂している。地方都市の市役所のお役人は、これらの公害雑草を知らないのか、野放し状態である。また、道行く人も公害雑草に全く気がつかないようである。そのためか、わずかに土のみえるような場所には、大

いこの種の雑草が優占しているようだ。

さて、これらの公害雑草の防除知識のPRは、一体、誰がしなければならぬのだろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年7月発行

第5巻第4号

¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番